



6月度の御書

「曾谷殿御返事」 (輪陀王御書)

御文

此の声をきかせ給う

梵天・帝釈・日月・四天

等いかでか色をまし

ひかりをさかんになし

給はざるべき

(御書1065ページ)

意味

私たちの唱題の声を聞かれた

梵天、帝釈、日月、四天王とい

う諸天善神が、どうして顔の色

つやが良くなつて、かがやきを

強くされないことがあるでしょ

うか(必ずそうなるのです)。

何があってもお題目を唱えて福運をつんでいこう

やあ、みんな！ ボクは、ライオン博士のキング君。とつぜんだけど、みんなは音楽は好きかな？ ボクは大好きだよ～。とくに好きなのがオーケストラの演奏なんだ！

オーケストラにはトランペットやバイオリン、打楽器など、いろいろな種類の楽器が集まっていて、その音は一つ一つちがうよ。

けれど、しき者の「しき」に合わせて、それぞれが美しい音をかなでる。すると、と一つでもはく力がある、すばらしい音楽が生まれるんだよ。ボクはオーケストラって、きく人に勇気や希望や感動をとどける「音の応えん団、みたいだと思ふんだ！

なぜこんな話をしたかっていうとね、実は信心にはげむボクたちにも、たのもしい「応えん団」がいるからなんだ。仏法の言葉で「諸天善神」っていうよ。

「諸天善神」とは、南無妙法蓮華経のお題目を唱えてがんばる人を守る力・働きのこと。

例えばピンチの時に、力になってくれる人があらわれたり、大事な場面で自分のイメージ通りにすすんだりすること。その人にとって、一番良い方向に進めるよ

うにんえんする働きなんだ。今回の御文では、この広い宇宙のあらゆる「諸天善神」を元気にして、味方にできるのがお題目だと教えられているよ。

しき者の「しき」で、オーケストラが演奏を始めるみたいに、お題目を唱えていくと「諸天善神」に力がみなぎって、その人を守ろうと働きますよ！

「諸天善神」は、信心の強い人ほど一生けん命にんえんするんだよ。「信心の強い人」というのは、少しむずかしいけど、お題目を唱えて、自分の心に「福運」という「幸せのエネルギー、をたくさん持っている人のことなんだ。

池田先生は語られているよ。

「どんななやみも、題目を唱えれば、全部、自分の力になっていきます。すべて福運に変わります。福運のある人は、いざという時に守られます。何があっても希望の方向へ、勝利の方向へ進んでいけるのです」

信心のしき棒をふるのは自分自身！ 今日もしっかりお題目を唱えて、どんなことも力に変える「勝利の名演奏、をひびかせながら、目の前の課題にチャレンジしていこう～！